



2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年10月31日

上場会社名 株式会社 オートバックスセブン 上場取引所 東
コード番号 9832 URL <https://www.autobacs.co.jp/>
代表者 （役職名）代表取締役 社長 （氏名）堀井 勇吾
問合せ先責任者 （役職名）経理・財務部長 （氏名）大木 勝仁 TEL 03-6219-8787
半期報告書提出予定日 2025年11月7日 配当支払開始予定日 2025年11月25日
決算補足説明資料作成の有無： 有
決算説明会開催の有無： 有 （証券アナリスト・機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	128,838	16.8	5,083	102.5	5,481	102.6	3,500	113.6
2025年3月期中間期	110,299	△1.4	2,510	△27.3	2,706	△20.4	1,638	△68.1

（注）包括利益 2026年3月期中間期 3,955百万円（115.6%） 2025年3月期中間期 1,834百万円（△64.3%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	44.59	—
2025年3月期中間期	20.98	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期中間期	226,631	133,768	58.9	1,698.60
2025年3月期	228,170	131,963	57.8	1,679.29

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 133,391百万円 2025年3月期 131,808百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	30.00	—	30.00	60.00
2026年3月期	—	30.00			
2026年3月期（予想）			—	30.00	60.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	276,000	10.6	13,500	11.3	13,500	7.9	8,200	0.8	104.42

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更： 無

新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2026年3月期中間期	82,050,105株	2025年3月期	82,050,105株
2026年3月期中間期	3,520,012株	2025年3月期	3,559,799株
2026年3月期中間期	78,503,402株	2025年3月期中間期	78,092,729株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (中間期)

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(決算説明会内容の入手方法)

当社は、2025年11月4日に証券アナリスト・機関投資家向けにオンラインにて決算説明会を開催する予定です。なお、決算説明に関する資料等につきましては、当社ホームページに掲載を予定しております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益及び包括利益計算書	6
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の増加等を背景に、景気は緩やかな回復基調を維持しております。他方、物価上昇の継続による個人消費への影響懸念に加え、各国の通商政策等の国際的な不確実要因により、依然として先行きには不透明感が残る状況が続いております。

国内の自動車関連業界の動向といたしましては、出荷停止していた一部自動車メーカーの出荷再開に伴い、新車販売台数は前年を上回りました。中古車市場においては、中古車オークション相場の高騰による仕入れ難が発生するも、中古車需要は底堅く推移し、中古車登録台数は前年同水準となりました。

このような環境下において、当社グループは、お客様にとっての「モビリティライフのインフラ」をグローバルで目指し、2024中期経営計画「Accelerating Towards Excellence」に基づき、「タッチポイントの創出」「商品・ソリューションの開発と供給」「新たな事業ドメインの設定」を戦略骨子とした各種施策を推進しております。この結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高1,288億38百万円（前年同期比16.8%増加）、売上総利益462億54百万円（同19.8%増加）、販売費及び一般管理費411億71百万円（同14.1%増加）、営業利益50億83百万円（同102.5%増加）、経常利益54億81百万円（同102.6%増加）、親会社株主に帰属する中間純利益35億円（同113.6%増加）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

〔オートバックス事業〕

オートバックス事業の売上高は941億66百万円（前年同期比5.5%増加）、セグメント利益は90億19百万円（同14.5%増加）となりました。

国内においては、国内オートバックスチェーン（フランチャイズ加盟法人店舗を含む）の全業態の売上高は、前年同期比で既存店が2.9%の増加、全店が4.2%の増加となりました。

国内オートバックスチェーンでは、タイヤ値上げによる反動減が懸念されたものの、専売タイヤの拡販や高付加価値タイヤのラインアップ拡充等の戦略的な販売促進が奏功し、タイヤが伸長いたしました。また、車両メンテナンス需要を背景に、オイル・バッテリー等のメンテナンス関連商品が堅調に推移し、これらの商品に伴うサービス工賃も伸長いたしました。

車検・整備については、車検対象車両台数の増加に加え、リピート率向上に向けた取り組み等により好調に推移し、車検実施台数は前年同期比5.2%増加の約33万5千台となりました。

車販売については、新車の販売が低調も、中古車の小売・業販ともに堅調に推移し、国内オートバックスチェーンにおける総販売台数は前年同期比0.8%増加の約14千9百台、総販売金額は前年同期比1.3%増加の179億10百万円となりました。

国内における出退店は、新規出店が19店舗、退店が1店舗あり、2025年3月末の1,020店舗から1,038店舗となりました。

海外においては、フランスは、商品ラインアップの拡充等を行ったものの、不安定な政治情勢や景気低迷の影響により、売上が減少いたしました。シンガポールは、メンテナンス需要獲得でピットサービスが好調となりました。

海外における出退店は、新規出店が3店舗あり、2025年9月末は151店舗となりました。

〔コンシューマ事業〕

コンシューマ事業においては、2024年8月にオトロンカーズ株式会社、2024年10月に株式会社東葛ホールディングス、2025年1月に株式会社ビーラインを連結子会社化したことにより、売上・利益ともに大幅に伸長いたしました。

この結果、コンシューマ事業における売上高は245億28百万円（前年同期比139.9%増加）、セグメント利益は1億8百万円（前年同期は8億33百万円のセグメント損失）となりました。

ディーラーにおいては、BYDの新型車投入等により売上が増加いたしました。また、2025年5月に栃木県小山市にアウディ正規ディーラー「Audi小山」をオープンいたしました。

オンラインストアにおいては、自社ECサイトが好調に推移したことに加え、外部ECモールにおける販売促進施策が奏功し、売上が伸長いたしました。

また、2025年4月には、全国70拠点のホームセンター等でカー用品販売および自動車整備事業を展開する株式会社ジェー・シー・エーを連結子会社化し、屋号を「AUTO IN」として運営を開始いたしました。一部商品や整備機材を当社の商流へ変更することで、事業シナジーの創出も図っております。

さらに、車検・整備・メンテナンスに特化した業態「AUTO IN車検・タイヤセンター射水店」、タイヤ専門店「ビーライン大野城店」、自社ローン専門の中古車販売店「オトロン名古屋店」および「オトロン豊橋店」を新規オープンし、店舗数が増加いたしました。

コンシューマ事業における出退店は、新規出店が76店舗、退店が5店舗あり、2025年3月末の124店舗から2025年9月末は195店舗となりました。

〔ホールセール事業〕

ホールセール事業における売上高は158億49百万円（前年同期比1.4%減少）、セグメント利益は2億37百万円（前年同期は1億6百万円のセグメント損失）となりました。

国内においては、セブン-イレブンへのPB商品の卸売が拡大いたしました。また、アルミホイールの製造・販売等を行う子会社は、ドレスアップホイールの販売が伸長いたしました。

海外においては、日本からの輸出は、低調に推移し、売上は減少いたしました。中国は、専売タイヤや新たな車内用品の取引開始に伴い、日本国内への輸出が拡大いたしました。オーストラリアにおいては、インフレや金利上昇を背景とした消費者の購買意欲の低下傾向が継続も新PB商品の販売好調により、前年同水準となりました。

〔拡張事業〕

拡張事業における売上高は52億63百万円（前年同期比17.9%増加）、セグメント利益は5億91百万円（同94.0%増加）となりました。

（2）当中間期の財政状態の概況

財政状態は、次のとおりであります。

当中間連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ15億39百万円減少し、2,266億31百万円となりました。主に受取手形及び売掛金および商品が増加した一方、現金及び預金および未収入金が減少したことなどによるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ33億44百万円減少し、928億62百万円となりました。主に支払手形及び買掛金が増加した一方、短期借入金および未払金が減少したことなどによるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ18億4百万円増加し、1,337億68百万円となりました。主に利益剰余金の配当などによる減少があった一方、親会社株主に帰属する中間純利益による増加があったためです。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	31,292	19,704
受取手形及び売掛金	29,602	31,559
商品	27,649	31,133
未収入金	27,902	22,035
その他	10,646	11,893
貸倒引当金	△64	△79
流動資産合計	127,028	116,246
固定資産		
有形固定資産		
土地	29,421	31,050
その他(純額)	27,336	31,248
有形固定資産合計	56,757	62,298
無形固定資産		
のれん	8,694	8,554
その他	8,676	8,389
無形固定資産合計	17,370	16,943
投資その他の資産		
差入保証金	11,998	12,932
その他	15,044	18,236
貸倒引当金	△28	△27
投資その他の資産合計	27,014	31,141
固定資産合計	101,142	110,384
資産合計	228,170	226,631
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,157	18,120
短期借入金	8,514	7,057
未払金	18,015	14,333
未払法人税等	2,781	2,573
その他	12,963	13,363
流動負債合計	58,432	55,448
固定負債		
社債	200	200
長期借入金	26,263	26,158
引当金	7	8
退職給付に係る負債	266	284
資産除去債務	3,398	3,497
その他	7,638	7,265
固定負債合計	37,774	37,413
負債合計	96,206	92,862

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,998	33,998
資本剰余金	34,138	34,092
利益剰余金	66,246	67,380
自己株式	△6,060	△5,988
株主資本合計	128,323	129,483
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,736	2,019
為替換算調整勘定	1,748	1,888
その他の包括利益累計額合計	3,484	3,907
非支配株主持分	155	377
純資産合計	131,963	133,768
負債純資産合計	228,170	226,631

(2) 中間連結損益及び包括利益計算書

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
売上高	110,299	128,838
売上原価	71,692	82,583
売上総利益	38,607	46,254
販売費及び一般管理費	36,097	41,171
営業利益	2,510	5,083
営業外収益		
受取利息	57	47
受取配当金	70	66
持分法による投資利益	127	192
情報機器賃貸料	346	166
その他	463	599
営業外収益合計	1,066	1,071
営業外費用		
支払利息	30	193
情報機器賃貸費用	426	208
固定資産除却損	31	14
その他	382	256
営業外費用合計	870	673
経常利益	2,706	5,481
特別利益		
負ののれん発生益	461	—
特別利益合計	461	—
特別損失		
減損損失	74	—
段階取得に係る差損	132	—
特別損失合計	207	—
税金等調整前中間純利益	2,961	5,481
法人税、住民税及び事業税	446	2,135
法人税等調整額	871	△180
法人税等合計	1,317	1,954
中間純利益	1,643	3,527
(内訳)		
親会社株主に帰属する中間純利益	1,638	3,500
非支配株主に帰属する中間純利益	5	27
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	155	288
為替換算調整勘定	28	111
持分法適用会社に対する持分相当額	8	28
その他の包括利益合計	191	428
中間包括利益	1,834	3,955
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,829	3,922
非支配株主に係る中間包括利益	5	32

(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	中間連結損 益及び包括 利益計算書 計上額 (注2)
	オートバ ックス事業	コンシュー マ事業	ホールセー ル事業	拡張事業	合計		
売上高							
顧客との契約から生 じる収益	86,922	10,164	11,320	705	109,112	—	109,112
その他の収益	—	—	—	1,187	1,187	—	1,187
外部顧客への売上高	86,922	10,164	11,320	1,892	110,299	—	110,299
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,367	59	4,749	2,572	9,748	△9,748	—
計	89,290	10,223	16,070	4,464	120,048	△9,748	110,299
セグメント利益又は 損失(△)	7,880	△833	△106	304	7,245	△4,734	2,510

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△4,734百万円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主にコーポレートの一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、中間連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「コンシューマ事業」セグメントにおいて、オトロンカーズ株式会社の株式を新たに取得したことにより、連結の範囲に含めております。当該事象によるのれんの増加額は、当中間連結会計期間においては2,127百万円であります。

(負ののれん発生益)

「オートボックス事業」セグメントにおいて、持分法適用関連会社であった株式会社ピューマの株式を追加取得したことにより、連結の範囲に含めております。当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当中間連結会計期間において461百万円であります。なお、負ののれん発生益は特別利益のため、上記セグメント利益又は損失(△)には含まれておりません。

Ⅱ 当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	中間連結損 益及び包括 利益計算書 計上額 (注2)
	オートバ ックス事業	コンシュー マ事業	ホールセー ル事業	拡張事業	合計		
売上高							
顧客との契約から生 じる収益	90,992	24,412	11,037	1,225	127,668	—	127,668
その他の収益	—	—	—	1,170	1,170	—	1,170
外部顧客への売上高	90,992	24,412	11,037	2,396	128,838	—	128,838
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,173	116	4,812	2,867	10,969	△10,969	—
計	94,166	24,528	15,849	5,263	139,807	△10,969	128,838
セグメント利益	9,019	108	237	591	9,956	△4,873	5,083

(注) 1. セグメント利益の調整額△4,873百万円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主にコーポレート的一般管理費であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

記載すべき重要な事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。